

## 平成27年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	青年心理学(Adolescent Psychology)	授業コード	K004151
担当教員名	山本 義史	科目ナンバリングコード	K10104
配当学年	2	開講期	後期
必修・選択区分	選択	単位数	2
履修上の注意または履修条件	履修条件はありません。注意は受講心得と同じです。		
受講心得	単なる教職科目としてではなく、青年期の自分の問題として、さらに将来対応することになる生徒の問題として積極的に受講し、考えてください。		
教科書	青年期の人間関係(培風館) 斉藤誠一(編)		
参考文献及び指定図書	ありません。		
関連科目	教育心理学		

授業の目的	教職選択科目です。教職に就いたとき、対象とするのは青年期にあたる生徒です。青年期は問題の時期であるともいわれます。実は、大人が青年を知らないのかもしれないし、本当に難しいのかもしれない。この青年の特性について、学生諸君が青年期後期なので、自分を材料として、探求していきます。さらに、最初の2回は教科書の第1章について教員が講義を行います。第2章以降は学生自身が資料(レジュメ)にまとめて発表ないしは模擬授業(20分授業、5分質疑応答、講評)を行ってまいります。これは教職志望者としての資質・力量に関わる実践的指導力や表現力など、適性を自己評価するためおよびその育成の機会としてもらうためです。また、学生どうしの質疑応答や相互評価も取り入れた実践的授業です。
授業の概要	最初の3回は教員による青年心理学の授業です。第4回以降は学生による青年心理学の範囲の模擬授業となります。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
<b>第1週：青年心理学について</b> 青年とは何か、教職で青年心理学を学ぶ意義について考えます。青年期は児童期から成人期への移行の時期です。それが、産業化や学習期間の延長で引き延ばされる傾向もあります。学問的にも社会的にも、そして教育においても関心を集めている領域です。	
<b>第2週：青年期の心理的発達と人間関係の発達</b> 青年期の身体的、認知的、自我の発達および社会的環境について学びます。主として中学入学時(12歳ころ)から就職、結婚年齢(30歳)までについてを青年期として取り扱い、このころの青年像を概観します。	
<b>第3週：青年期の人間関係の発達にかかわる理論</b> 青年期における人間関係の発達を直接に取り扱った理論は多くはありませんが、主に生涯発達の中で人間関係を言及しているエリクソンとハヴィグーストの理論および青年期の集団発達を言及しているダンフィーの理論を取り上げて説明します。	
<b>第4週：親離れから異性との親密な関係の成立まで 1</b> 学生発表ないしは模擬授業	レジュメを作成 他の学生は生徒役
<b>第5週：親離れから異性との親密な関係の成立まで 2</b> 学生発表ないしは模擬授業	同上

第6週：親離れから異性との親密な関係の成立まで 3 学生発表ないしは模擬授業		同上
第7週：人間関係の発達と対人感情 1 学生発表ないしは模擬授業		同上
第8週：人間関係の発達と対人感情 2 学生発表ないしは模擬授業		同上
第9週：人間関係のつまづきと病理 1 学生発表ないしは模擬授業		同上
第10週：人間関係のつまづきと病理 2 学生発表ないしは模擬授業		同上
第11週：青年期の人間関係の現代的課題 1 学生発表ないしは模擬授業		同上
第12週：青年期の人間関係の現代的課題 2 学生発表ないしは模擬授業		同上
第13週：新たな家族の誕生—恋愛・結婚・子の誕生まで 1 学生発表ないしは模擬授業		同上
第14週：新たな家族の誕生—恋愛・結婚・子の誕生まで 2 学生発表ないしは模擬授業		同上
第15週：社会参加に伴う新たな人間関係 学生発表ないしは模擬授業		同上
第16週：期末試験なし		
授業の運営方法	(1)授業の形式	「演習等形式」
	(2)複数担当の場合の方式	
	(3)アクティブ・ラーニング	「アクティブ・ラーニング科目」
地域志向科目	該当しない	
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	教職のために青年期の特徴に関心を持ちます。
【知識・理解】	青年期の特徴を理解すると同時に、青年期にある自己理解を深めます。
【技能・表現・コミュニケーション】	模擬授業により、教育技能・コミュニケーション力・表現力を高めます。
【思考・判断・創造】	模擬授業で使用するレジュメを作成することで思考・判断・創造性を高めます。

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等 (テスト)	レポート・作品等 (提出物)	発表・その他 (無形成果)	
<b>【関心・意欲・態度】</b> ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。			<b>40点</b>	
<b>【知識・理解】</b> ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。		<b>20点</b>		
<b>【技能・表現・コミュニケーション】</b> ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。		<b>20点</b>		
<b>【思考・判断・創造】</b> ※「考え抜く力」を含む。		<b>20点</b>		
<b>(「人間力」について)</b>				
※以上の観点到、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	
発表・その他 (無形成果)	模擬授業(発表)は学生同士の相互評価を加味します。20点